



大人のための 給食新聞



食の話。どう思いますか？

以前、新聞を読んでいると日本マクドナルドの社長の談話が掲載されていました。

マクドナルドが銀座に日本第一号店を出店したのが1971年。学校給食でパン食に親しんできた子ども達が、マクドナルドを支持してきたとの発言でした。そして、給食でパンに親しんできた子ども達は大人になればマクドナルドのハンバーガーを主食にすると言うのです。

確かに、給食が子ども達の食生活に大きな影響を与えることは十分に考えられます。しかし、先の社長の発言は、企業のトップとしての発言であり、本気でそうは思っていないだろうと思っていたのですが、その後、テレビで、若者に食事に關するインタビューをしているのを見てビックリしました。20歳前後の男女とも、ほとんどがちゃんと食事をしていないと言っているではありませんか！ファーストフードはましな方。ポテトチップス、飴と言つ回答も。地域性もあるのでしょうか、目と耳を疑いました。別の番組では、太刀魚（切り身じゃないですよ）を見て、ヒラメ、鰯、煮干（?!）という〇もいました。これはもう食べさせるだけではなく、《食教育》をちゃんとやらなければならぬと痛感しました。

心配なのは若者だけではありません。店で



売っている食物への安全神話は広く信じられています。添加物たっぷり、農薬たっぷりの食物、遺伝子組換え作物による人体への影響は無視されています。そういった影響は短期間に現れるものではなく、私達の孫、ひ孫、もつと先の子孫に現れると思われまふ。売っている物は絶対安全ではありません。古くは合成甘味料のチクロのように、堂々と売られていた物が、人体に有害だと使用禁止になった例もあります。

「食品添加物や農薬は使用可能な量が決められているから安全だ」との説がありますが、毒は薄めても毒なのです。致死量じゃなければ即死しないというだけのことです。

「そんなことを気にしては何かも食べられない」という意見もよく耳にします。しかし、近頃は添加物や化学調味料を使わない食品を売るメーカーも見受けられます。添加物入りの製品と無添加の製品の両方を製造・販売しているメーカーが多いのですが、それらのメーカーは無添加の製品を作り始めたのは消費者がそれを求めているから、簡単に言うて売れるからだと言っています。つまり、みんなが安全な食品を選択すると安全な食品が増えるということなのです。

古くから伝えられてきた食文化と、安全な食べ物への次の世代に伝えるのは私達、大人の役割です。



ぼんびんぼん。

最近、《牛乳》で悩んでいます。牛乳はカルシウム、ビタミンB2などを豊富に含み、給食に不可欠な食品です。しかし、ご飯を中心とした和食の献立に牛乳が合うのだろうかと考えています。摂津市では御存知のように週3回の米飯給食を実施しています。ご飯に五目豆と味噌汁にも牛乳はつきまふ。栄養面では完璧ですが、違和感を持つ児童もいるようです。食文化という観点でみると、ご飯に牛乳はおかしいような気がします。しかし、食文化は時代と共に変わっていくものだという考え方もあります。牛乳自体が昔は一般的ではなかったのですから。ご飯と牛乳を違和感なしに食べられる児童もたくさんいますが、給食の牛乳は見直した方がいいのでしょうか？

もし、ご飯の日は牛乳をつけないとなると牛乳で摂取している栄養を代わりの食品で摂取しなければなりません。しかし、牛乳と同等の栄養を他の食品でまかなおうとすると牛乳よりはるかに高価になってしまいます。限られた給食費では無理なのです。

牛乳だけを給食とは時間をずらして、例えば2時間目の休み時間に飲んだらどうだろうか、とか、いろんな事を考えていますが、調理員や栄養士だけで決められる話ではありません。先生方や保護者のみなさん、何よりも児童の意見が重要だからです。

先の食の話と共に、保護者のみなさんのご意見を是非うかがいたいと思います。

